

「やりたいな、ぼくの気持ち 伝えたい」 ～子供のコミュニケーションの向上を目指して～

小出特別支援学校小学部1組 角屋香里 小堺遥

児童の実態

- ハンモックゆらゆら気持ちいい
- 動いたら、いいことがあった！
もっとやりたいな
- この曲いいな
- いいにおいだな
- あたたかいな

- 「何？」「どこ？」「だれ？」
- けいれん・呼吸、苦しいよ
- 身体がうまく動かせないよ
- まだ眠いよ
- 思っていることが伝えられない



伝えたい

伝えられない

できる動きで 伝える

目指す姿

手だて

好きな活動を用意し、教師が「～しよう」と言葉掛けをする
できる動きの表出を待つ
表出された動きを児童にフィードバックする



ハンモック

ピーナッツボール

足湯

指導の工夫

反応関係の意識化	→	見る・聞く・触れる・嗅ぐ等で知らせる
サインの意識化	→	表出を待ち、選んだらすぐに行う
表出の見取りの確認	→	表情・心拍数を確認する (パルスオキシメーターの使用)
学習状態の最適化	→	覚醒状態・発作の有無を把握する 環境(明るさ・気温・湿度)を整える

実践
変容

心拍数と表情や動作の変化

		ハンモック	ピーナッツボール	足湯
A 児	心拍	103→75	103→113	103→89
	様子	横になり、身体を屈曲させる	目を大きく開き時折笑顔になる	ほおづえをついてゆったりする
B 児	心拍	100→59	100→93	100→78
	様子	目を閉じてゆったりする	横抱っこ: ゆったりする	目を閉じ舌を出してゆったりする



まとめ
今後の
課題

- ビデオによる記録と評価、評価用紙での記録を丁寧に行うことで、児童の表出を客観的に行うことができた。
- 反応の強化と意識付けを継続し、サイン化につなげていく。